

読んだ本

(東山魁夷／絵 松本猛／文・構成 講談社)

「白い馬」

川崎市立宮前小学校三年

小宮楓夏 こみやふうか

わたしはこの本を読んでふしぎな気持ちになりました。読む前に、2年生のころやった「スーホの白い馬」みたいな話なのかと、そうぞうしていました。読んでみると、ぜんぜんちがいました。なんとその馬は現実に出るのではなく、主人公の夢の中に出てくる馬だったのです。

主人公がまいごになってしまい、その白い馬が助けてくれました。するとその馬は、主人公をせなかに乗せ、白い馬は主人公の大すきなところにつれていきました。どうして主人公の大すきなところが分かるのだろうと、ふしぎに思いました。そのあと、白い馬が言いました。

「わたしはいつでもあなたの心の中にいる」その言葉を聞いてわたしは、ふしぎな気持ちでした。心の中にいるってどうゆうことだろう。その馬は、主人公のことを昔から知っていたのかなあ。それとも、昔からの知り合いで、馬にへんしんしたのだろうか。

そのようなそうぞうをしながらさいごまで読みました。結局その馬のしょうたいは分かりませんが、

「わたしはいつでもあなたの心の中にいる」という言葉を聞いて、なんだかあったかい気もちになりました。その馬は、主人公のことをとても思っていることが分かったからです。

わたしはあたり前のように、こまった時は家族がいて、家族がいない時も白い馬のように、心の中に家族がいるんだなあと思います。わたしたちも、家族がこまった時に心の中に入れたらなあと思います。